診察風景を通して学ぶ弁証のステップ。

いかに患者と接し，どう弁証するのか。
中医の思考プロセスが明らかになる。

本書の特長

医師と患者の会話形式で，弁証論治を行う診察風景を再現。

◇イメージしやすく，実際の臨床に活用しやすい。
◇短時間のうちに臨床における初歩的な情報集めの方法を学べる。
◇臨床における弁証論治の立て方や分析の仕方を容易に理解できる。
◇複雑で変化の激しい臨床のなかで，学んできた知識を有効に運用できる。

本書の内容

◇対話の要所で，弁証論治の組み立て方・分析方法・結論の導き方を解説。
◇症状ごとによくみられる証の種類や特徴，鑑別ポイントなどを論述。
◇四診情報の揃った簡潔なカルテを掲載。
◇副篇では，診断トレーニングが行える。
◇本篇114，副篇87，計201症例を収録。

中医学を学ぶための雑誌『中医臨床』（季刊）ますます面白く，実用的な内容になっています。

東洋学術出版社　ご注文は，メールまたはフリーダイヤルFAXで　FAX.0120-727-060

〒272-0822 千葉県市川市宮久保3-1-5／TEL.047-371-8337／E-mail：hanbai@chuui.co.jp／ホームページ http://www.chuui.co.jp/

［実践講座］

中医弁証

楊亜平＝［主編］／平出由子＝［訳］

A5判／並製／800頁／定価 本体5,800円＋税

初学者のための中医診察ナビゲーション。

［実践講座］中医弁証

■主な目次と内容見本

第１章 ◇ 全身症状

1 寒熱
2 発汗の異常
3 不眠
4 嗜睡
5 浮腫
6 半身不随
7 黄疸
8 情緒の抑うつ

第２章 ◇ 頭部・頸部の症状

1 頭部の変形
2 めまい
3 頭痛
4 耳鳴り・耳聾
5 口や目のゆがみ（顔面神経麻痺）
6 歯茎の出血（歯衄）
7 口内炎（口瘡）
8 副鼻腔炎（鼻淵）
9 扁桃腺炎（乳蛾）
10 声のかすれ（音）・失声（失音）
11 目の充血
12 味覚異常
13 頸部の肥大

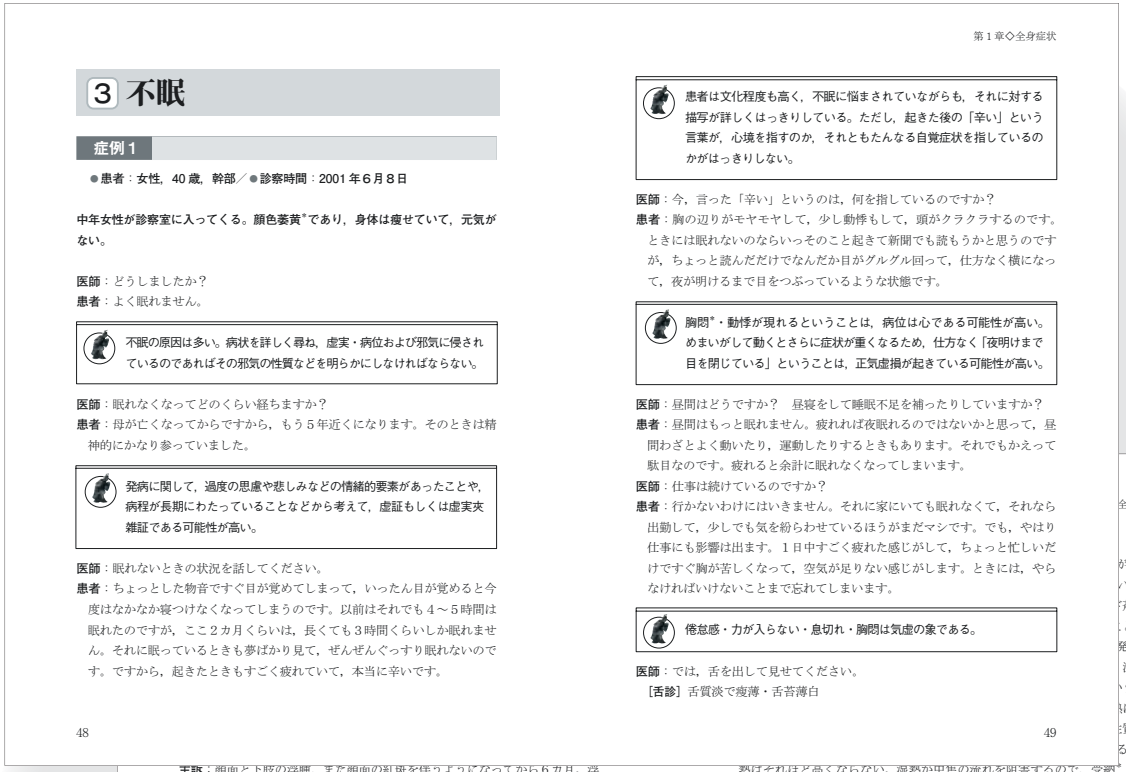
第３章 ◇ 胸部・腹部の症状

1 心悸
2 咳・喘・哮
3 胸痛・胸悶
4 乳房の痛み・乳腺腫瘍（乳痛・乳癖）
5 げっぷ・しゃっくり・胃酸過多
6 悪心・嘔吐
7 食欲不振
8 吐血
9 消化過多（消穀善飢）
10 胃痛・胃のつかえ
11 腹痛・腹部の膨満感（腹脹）
12 脇痛
13 鼓脹

第４章 ◇ 尿・便・帯下の症状

1 泄瀉
2 膿血便
3 血便
4 便秘
5 吐き下し（吐瀉）
6 頻尿・排尿時の疼痛
7 夜間の頻尿
8 月経量の異常
9 月経周期の異常
10 生理痛（痛経）
11 無月経（閉経）
12 不正出血（崩漏）
13 帯下異常

付録：症例トレーニング



第１章◇全身症状

3 不眠

症例１

●患者：女性，40 歳，幹部／●診察時間：2001 年６月８日

中年女性が診察室に入ってくる。顔色萎黄*であり，身体は痩せていて，元気がない。

医師：どうしましたか？
患者：よく眠れません。

不眠の原因は多い。病状を詳しく尋ね，虚実・病位および邪気に侵されているのであればその邪気の性質などを明らかにしなければならない。

医師：眠れなくなってどのくらい経ちますか？
患者：母が亡くなってからですから，もう５年近くになります。そのときは精神的にかなり参っていました。

発病に関して，過度の思慮や悲しみなどの情緒的要素があったことや，病程が長期にわたっていることなどから考えて，虚証もしくは虚実夾雑証である可能性が高い。

医師：眠れないときの状況を話してください。
患者：ちょっとした物音ですぐ目が覚めてしまって，いったん目が覚めると今度はなかなか寝つけなくなってしまうのです。以前はそれでも４～５時間は眠れたのですが，ここ２カ月くらいは，長くても３時間くらいしか眠れません。それに眠っているときも夢ばかり見て，ぜんぜんぐっすり眠れないのです。ですから，起きたときもすごく疲れていて，本当に辛いです。

48

患者は文化程度も高く，不眠に悩まされていながらも，それに対する描写が詳しくはっきりしている。ただし，起きた後の「辛い」という言葉が，心境を指すのか，それともたんなる自覚症状を指しているのかがはっきりしない。

医師：今，言った「辛い」というのは，何を指しているのですか？
患者：胸の辺りがモヤモヤして，少し動悸もして，頭がクラクラするのです。ときには眠れないのならいっそのこと起きて新聞でも読もうかと思うのですが，ちょっと読んだだけでなんだか目がグルグル回って，仕方なく横になって，夜が明けるまで目をつぶっているような状態です。

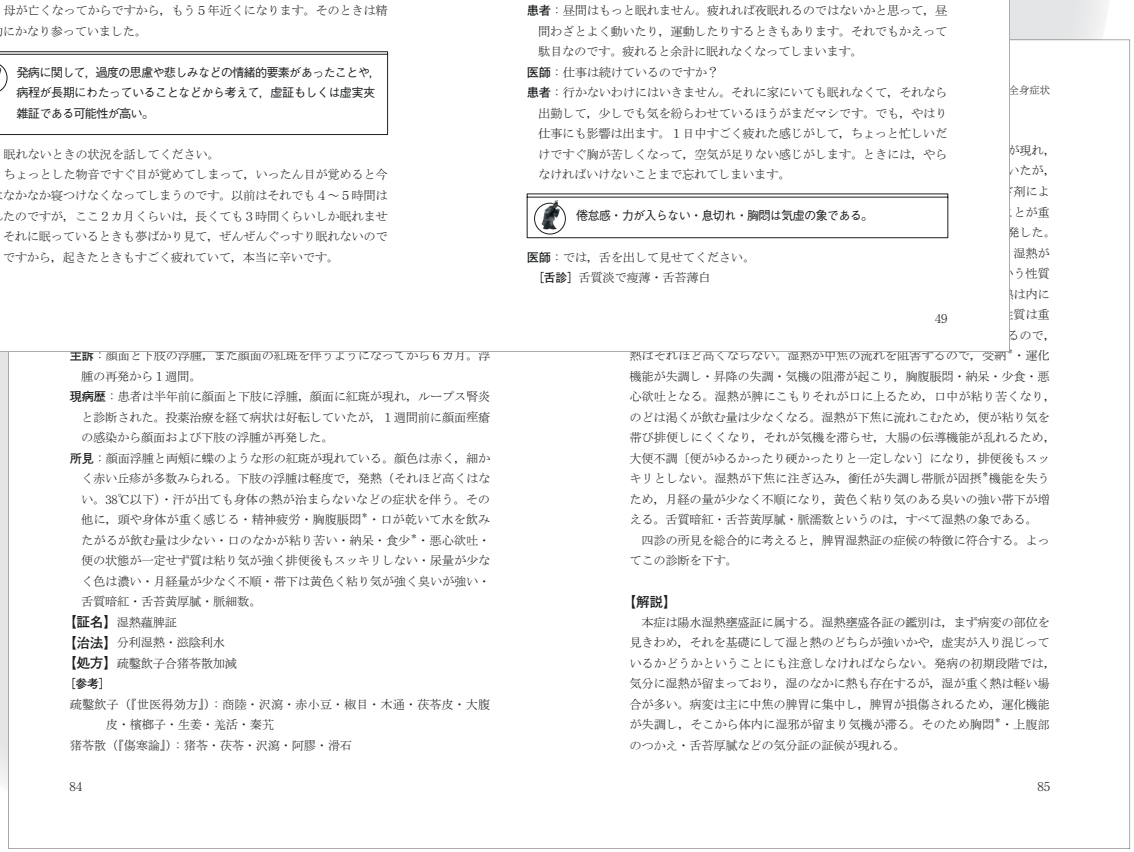
胸悶*・動悸が現れるということは，病位は心である可能性が高い。めまいがして動くとさらに症状が重くなるため，仕方なく「夜明けまで目を閉じている」ということは，正気虚損が起きている可能性が高い。

医師：昼間はどうですか？　昼寝をして睡眠不足を補ったりしていますか？
患者：昼間はもっと眠れません。疲れれば夜眠れるのではないかと思って，昼間わざとよく動いたり，運動したりするときもあります。それでもかえって駄目なのです。疲れると余計に眠れなくなってしまいます。
医師：仕事は続けているのですか？
患者：行かないわけにはいきません。それに家にいても眠れなくて，それなら出勤して，少しでも気を紛らわせているほうがまだマシです。でも，やはり仕事にも影響は出ます。１日中すごく疲れた感じがして，ちょっと忙しいだけですぐ胸が苦しくなって，空気が足りない感じがします。ときには，やらなければいけないことまで忘れてしまいます。

倦怠感・力が入らない・息切れ・胸悶は気虚の象である。

医師：では，舌を出して見せてください。
［**舌診**］舌質淡で痩薄・舌苔薄白

49



主訴：顔面と下肢の浮腫，また顔面の紅斑を伴うようになってから６カ月。浮腫の再発から１週間。
現病歴：患者は半年前に顔面と下肢に浮腫，顔面に紅斑が現れ，ループス腎炎と診断された。投薬治療を経て病状は好転していたが，１週間前に顔面痤瘡の感染から顔面および下肢の浮腫が再発した。
所見：顔面浮腫と両頬に蝶のような形の紅斑が現れている。顔色は赤く，細かく赤い丘疹が多数みられる。下肢の浮腫は軽度で，発熱（それほど高くはない。38℃以下）・汗が出ても身体の熱が治まらないなどの症状を伴う。その他に，頭や身体が重く感じる・精神疲労・胸腹脹悶*・口が乾いて水を飲みたがるが飲む量は少ない・口のなかが粘り苦い・納呆・食少*・悪心欲吐・便の状態が一定せず質は粘り気が強く排便後もスッキリしない・尿量が少なく色は濃い・月経量が少なく不順・帯下は黄色く粘り気が強く臭いが強い・舌質暗紅・舌苔黄厚膩・脈細数。
【証名】湿熱蘊脾証
【治法】分利湿熱・滋陰利水
【処方】疏鑿飲子合猪苓散加減
［**参考**］
疏鑿飲子（『世医得効方』）：商陸・沢瀉・赤小豆・椒目・木通・茯苓皮・大腹皮・檳榔子・生姜・羌活・秦艽
猪苓散（『傷寒論』）：猪苓・茯苓・沢瀉・阿膠・滑石

84

熱ほどそれほど高くならない。湿熱が中焦の流れを阻害するので，受納*・運化機能が失調し・昇降の失調・気機の阻滞が起こり，胸腹脹悶・納呆・少食・悪心欲吐となる。湿熱が脾にこもりそれが口に上るため，口中が粘り苦くなり，のどは渇くが飲む量は少なくなる。湿熱が下焦に流れこむため，便が粘り気を帯び排便しにくくなり，それが気機を滞らせ，大腸の伝導機能が乱れるため，大便不調〔便がゆるかったり硬かったりと一定しない〕になり，排便後もスッキリとしない。湿熱が下焦に注ぎ込み，衝任が失調し帯脈が固摂*機能を失うため，月経の量が少なく不順になり，黄色く粘り気のある臭いの強い帯下が増える。舌質暗紅・舌苔黄厚膩・脈濡数というのは，すべて湿熱の象である。
四診の所見を総合的に考えると，脾胃湿熱証の症候の特徴に符合する。よってこの診断を下す。

【解説】
本症は腸水湿熱壅盛証に属する。湿熱壅盛各証の鑑別は，まず病変の部位を見きわめ，それを基礎にして湿と熱のどちらが強いかや，虚実が入り混じっているかどうかということにも注意しなければならない。発病の初期段階では，気分に湿熱が留まっており，湿のなかに熱も存在するが，湿が重く熱は軽い場合が多い。病変は主に中焦の脾胃に集中し，脾胃が損傷されるため，運化機能が失調し，そこから体内に湿邪が留まり気機が滞る。そのため胸悶*・上腹部のつかえ・舌苔厚膩などの気分証の証候が現れる。

85